

平成28年度第2回桑名市入札監視委員会議事録

日 時 平成28年11月25日（金） 13:30 ～ 14:30

場 所 桑名市役所3階第2会議室

出席者 桑名市入札監視委員会委員（5名）

東川 薫（委員長）

伊藤由美子（副委員長）

赤木 邦男

佐藤 久善

藤田 素弘

事務局（7名）

水谷 正雄（総務部 部長）

和田 克正（契約監理課 課長）

種村 悟（〃 課長補佐兼検査指導係長）

松本 浩二（〃 課長補佐兼契約係長）

藤堂 真志（〃 契約係）

稲垣 吉文（上下水道部 企画総務課 課長）

大平 善英（〃 課長補佐兼総務係長）

工事担当課（9名）

高井 博司（上下水道部 施設課 課長）

加藤 文人（〃 主幹）

栗原 繁憲（上下水道部 工務課 課長）

西田 勝彦（〃 主幹）

蛭川 裕司（〃 ）

森下 誠（防災・危機管理課 課長）

太田 克典（〃 防災対策係長）

丹羽 孝至（農林水産課 課長）

川瀬 博之（〃 農業基盤整備係）

事 項

1 開 会

【事務局】

失礼いたします。定刻に少しまだ早いですけれども、皆さんおそろいということでございますので、ただいまから始めさせていただきます。

本日は、ほんとうにご多忙の中、ご出席賜りありがとうございます。

定刻より少し早いですけど、平成28年度第2回入札監視委員会を開催させていただきます。

私は、本日、司会を進行させていただきます契約監理課の和田です。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に総務部長から挨拶いたします。

【事務局】

総務部長の水谷でございます。

この会議、午前に開催することが多いわけですが、本日は午後の開催となりました。委員の皆様方には、何かとお忙しい中、本年度第2回目の入札監視委員会にご出席をいただきましてまことにありがとうございます。

この委員会は、振り返りますと、本市において発生した不祥事を契機に、平成24年度から、それ以前は要綱に基づき設置していたものを、委員会の役割や位置づけを一層明確にするため条例化し、運用してきております。以降、本市では不適切な事象は発生していませんが、公共事業の業者選定などに関し、国の機関あるいは地方公共団体等における不祥事がたびたび報道されております。当然のことではありますが、これからも決して不祥事が発生することのないよう、適正な事務の執行に努めてまいります。

本日は、抽出していただきました事案の審議に加えて、最低制限価格につきましてもご協議をお願いする予定でございます。毎回申し上げておりますが、入札契約の制度をよりよいものとし、公共工事等が適切に実施していけますよう、引き続き委員の皆様方におかれましては、より高い視点、広い視野でのご意見をいただければと思っております。

それでは、改めまして、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

本日の議事につきまして、お手元の事項書に基づき進めさせていただきますので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

なお、本委員会は、入札監視委員会条例第5条第2項の規定を満たしておりますので、この会議は成立していることをご報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、東川委員長様からご挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

皆さん、お忙しいところありがとうございます。たしか、今回私の都合で最初の日程を変更させていただきました、ほんとうにお手数おかけしまして申しわけございませんでした。

最近、例えば東京ですと、豊洲の市場の問題ですとか、同様にオリンピックの施設のこととか、公共施設につきましても一般の方の関心というのは非常に高まっているのではないかというふうに思っておりますので、この委員会を継続して常時やっていくことが非常に意義のあることでありますけれども、しっかりやっていきたいというふうに思いますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

ここからは、桑名市入札監視委員会条例第5条第1項の規定に基づきまして、東川委員長に議事進行をいただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、事項書に従って議事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は一般公開といたしております。これ以降の審議につきまして、傍聴を希望される方がお見えのようですので、許可をいたしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員】

(異議なし)

【委員長】

それでは、ありがとうございます。それでは、傍聴の方の入場のため、しばらくお待ちください。

(傍聴人 入室)

【委員長】

本委員会での写真、映像等につきましては、頭出し部分に限らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

2 議 事

(1) 入札及び契約手続きの運用状況について

【委員長】

それでは、早速審議に入りたいと思います。議事の1です。入札及び契約手続きの運用状況につきまして、事務局から説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】

本日は、よろしくお願いいたします。事務局の松本です。座って失礼させていただきます。

それでは、入札及び契約手続きの運用状況について報告をさせていただきます。

まず、指名停止の状況でございます。資料の1ページをごらんください。

今回の審議対象期間である平成28年4月から8月の5カ月間に指名停止措置を講じた件数は、資料のとおり5件となっております。このうち、本市が独自に指名停止を講じた案件は、このたびはございません。これら5件につきましては、三重県が実施いたしました指名停止に合わせまして、本市でも同等の措置を講じたものとなっております。

次に、談合情報の状況でございますが、対象期間内において寄せられたものはございませんでした。

以上となります。お願いします。

【委員長】

それでは、ただいまのご報告につきまして、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

【委 員】

(特になし)

(2) 抽出事案の審議について

【委員長】

それでは、続きまして議事の2です。

抽出事案の審議についての項目に移りたいと思います。

審議に先立ちまして、抽出案件5件について説明を得るため、入札監視委員会条例第6条の規定に基づき関係者の出席を求めたいと思いますが、いかがでしょうか。

【委 員】

(異議なし)

【委員長】

それでは、関係者の出席をお願いいたします。

(工事担当課 入室)

【委員長】

それでは、よろしければ私のほうから、審議に当たりまして今回私が抽出いたしましたので、5件の抽出理由につきまして説明をいたしたいと思います。

まず1件目です。施設構造物耐震調査業務委託ということで、これはいわゆるコンサルタント業務ということになります。入札方法としては、事後審査型条件付一般競争入札です。抽出理由としては、発注金額が高額であるため抽出いたしました。

2件目です。西部水源系導・送水管詳細設計業務委託です。これも一般的にコンサルタント業務ということになります。抽出理由といたしましては、まず、入札方法として随意契約であるということと、あと、同様に発注金額が高額であるために抽出をいたしました。

3件目です。巖新田幹線森忠枝線污水管路施設工事です。これは、入札方法は事後審査型条件付一般競争入札で、発注金額が高額であるため、それと、また後ほどご説明をしていただけたと思いますが、低入札価格調査試行案件であるということを理由として抽出いたしました。

4件目です。桑名市防災行政無線整備工事、これは入札方法は、事後審査型条件付一般競争入札です。抽出理由は、発注金額が高額であるため、また、先ほどと同様に、この案件も低入札価格調査試行案件であるため抽出をいたしました。

最後、5件目です。除塩用水管推進工事、これも事後審査型条件付一般競争入札でありまして、抽出理由は、発注金額が高額であるため、あと、応札業者の数が少ないという理由で抽出をいたしました。

以上が今回の5件の抽出ということであります。

なお、これら5件については、以前にこの委員会で説明等があったかもしれませんが、私を含めてあまり記憶に残っていなかったのですが、今回、偶然説明を受ける中で、入札参加資格審査会というのを本市では継続してやっていただいております、今回の案件については、全て審査を受けてから発注されているということもお聞きしましたので、この機会ですから、この審査会についての説明を事務局のほうからお願いしたいと思います。

それでは、お願いします。

入札参加資格審査会について

【事務局】

それでは、事務局のほうから説明させていただきます。

入札参加資格審査会は、桑名市が執行する一般競争入札、指名競争入札及び随意契約における参加資格要件並びに入札及び契約に関する事項の審査を行い、入札及び契約の適正化を図ることを目的としております。審査会は、副市長を会長とし、市長公室長、総務部長及び工事担当部局の部課長による全16名で構成されております。対象となります案件は、一般競争入札で設計金額が5,000万円以上の工事もしくは500万円以上のコンサル委託、もしくは指名競争入札で1,000万円以上の工事、随意契約において500万以上のものを対象としております。これらの案件は、審査会において審査、承認されることで初めて発注できるようになります。今回上げられております5件の議題につきましても、入札参加資格審査会にかけられており、審査、承認を受けた後に発注されたものとなっております。

入札参加資格審査会についての説明は以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。

今のご説明については、ご質問とかございませんか。

【委員】

(特になし)

【委員長】

それでは、また何かありましたら、後ほどでも結構ですのでお願いいたします。

それでは、第1案件です。施設構造物耐震調査業務委託につきまして、発注担当課から委託概要の説明をしていただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

抽出事案 1 施設構造物耐震調査業務委託

【担当課】

上下水道部施設課の高井でございます。業務の概要をご説明いたします。

履行場所は桑名市島田地内他でございます。委託業務名といたしまして、施設構造物耐震調査業務委託でございます。設計金額は2,722万8,960円、税込みでございます。履行期間につきましては、平成28年5月30日から平成28年10月14日となっております。本業務は、桑名市上水道事業の基本計画の耐震調査というのがございますが、それに基づいて調査をしたものであります。上水道の施設など耐震化を進めるため、重要基幹設備の調査を行い、今後耐震化を進めていくものでございます。

調査箇所につきましては、業務概要としまして、調査箇所が南部水源地管理棟RC造370.73平方メートル、南部配水場配水池PC造4,000立方メートル、赤尾配水場（配水池）PC造1,000立方メートル、多度北部配水場配水池PC造3,000立方メートル、多度南部配水場配水池PC造1,500立方メートル、小山の配水場、旧配水池と新配水池がございますが、それぞれ715立方メートルと535立方メートルとなります。最後に、多度北部第二送水場の送水ポンプ室RC造128平方メートルとなっております。

以上で概要の説明を終わります。

【事務局】

引き続きまして、本件の発注経緯について説明をしていきます。

本件、平成28年4月27日に事後審査型条件付一般競争入札で発注公告をしております。発注の業種が建設コンサルタント、所在地要件が県内です。技術者要件としては、管理技術者と照査技術者のような条件を付し、管理技術者と照査技術者については兼任を認めておりません。同種工事施工実績として、平成18年度以降、官公庁が発注した元請単独の案件で、上水道配水池、PC造2,000立方メートル以上の耐震調査業務の実績を求めています。平成28年5月17日に開札した結果、13者の応札があり、うち2者が最低制限価格を下回り、失格です。10者が同金額の入札となり、くじにより、丸栄調査設計株式会社を落札候補とし、その後の審査で適格であったため、同社を落札業者とし、契約を締結しました。

以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

【委員】

毎回お聞きするので、多分答えは1つかと思いますが、この最低制限価格に張りついた状態で10者同じ額になるというのは、このコンサルは比較的単純なものなのでしょうか。

【担当課】

金額が近づいて、10者程度同じ金額があるところがあるんですけども、やはり最近、設計金額を開示請求することがあったり、あと、ソフトなんかの金額が出るようなこともできるというような話も

聞いておりますので、そのようなところ、いろいろ研究しているところもあると思いますので、やはり金額的には近づいた同じような金額になるということも考えられるかなというふうに解釈しております。

【委員】

こういうのを例えば出す積算ソフトというのは、1種類しかないということなんですか。

【担当課】

すみません、積算ソフトの件については、それ自体はうちのほうではないものですから、それは業者さんがそのようなことはあるというふうなことは聞いておりますけれども、たくさんあるとかそういうのは、ちょっと私のほうではわかりません。

【委員】

ありがとうございました。そういうコンピューターに頼ったところを出すと、こういう結果になって、それに対してはいかんと評価がしがたいという話なのかなというふうには思います。ありがとうございます。

【委員長】

ほかにはいかがでしょうか。

それでは、この案件につきましては特に問題なしといたしますけれども、積算ソフトの件は継続して結構ずっと出てきている話なので、こちらから発注をかける側としても、どういうものを使っているのかということは少し勉強していただいて、次回の委員会までとは言いませんけれども、少し報告をしていただければ勉強になるかなと思いますので、よろしくお願いします。

抽出事案 2 西部水源系導・送水管詳細設計業務委託

【委員長】

それでは、次の第2案件に行きたいと思います。西部水源系導・送水管詳細設計業務委託について発注担当課から委託概要を説明していただき、その後、事務局から落札経過と現状の説明をお願いいたします。

【担当課】

上下水道部工務課でございます。業務の概要をご説明申し上げます。お手元の資料、21ページをござらんください。

委託業務名は西部水源系導・送水管路詳細設計業務委託、履行場所は桑名市星川地内ほか、設計金額は1,294万4,880円、履行期間は平成28年8月8日より平成29年1月16日までとなっております。本業務は、基幹管路耐震基本設計の検討結果に基づき、桑名市上水道基本計画における整備優先度が高い西部水源系の導・送水管路を対象に、管の耐震化を図るため、布設替詳細設計を委託するものでございます。対象場所は、資料22ページから23ページの位置図にありますように、員弁川沿いの芳ヶ崎地区にあります西部水源1から5号の井戸から西部水源地の送水ポンプ場を結ぶ導水管路と、星川地区を通ります嘉例川橋上流側にかかる導・送水ポンプ場から大山田東配水池へ向けた送水管路を対象としております。業務の詳細につきましては、通常、水道管を入れかえる設計業務は、現地調査を行い、河川、道路等の管理者と占用調整、設計協議を経て、平面図、断面図、配管図など図面を作成し、工事発注に必要となります材料、手間などの数量を算出するものでございますが、本案件は、現在契約中の基幹管路耐震基本設計業務受託者と随意契約を行うことにより、現地調査や関係機関との調整、設計協議など重複する業務を最初から取り除き、履行期間の短縮と事業費の削減を図り、発注を行ったものでございます。

以上で説明を終わります。

【事務局】

引き続きまして、本件の結果についてご報告をします。

本件、随意契約として平成28年8月2日に見積もり合わせを実施し、その結果、株式会社カギテッ

ク桑名営業所様が予定価格の範囲内の見積書を提示したため、同社と契約を締結しました。

以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いしたいと思います。

【委員】

現在行われております基幹管路基本設計委託は、いつ契約されたんでしょう。

【担当課】

工務課の西田です。

契約は平成27年7月17日で、履行期間が平成29年3月15日までとなっております。2カ年に及ぶ債務負担行為の契約となっております。

【委員】

その27年7月17日に基幹管路基本設計委託をされた段階では、この西部水源系の導・送水の詳細設計委託というのは考えていなかったとか、構想の中にはなかったんでしょうか。

【担当課】

当初からありました。ただ、なぜ基本設計を行ったかという、水源系、ほかにもたくさんございまして、その中で、どこが優先的にやるべきか、また、施工順番、幾ら優先度が高くても、先にこちらをしないと整備ができないとか、そういう順番もございまして、そこら辺をしっかりと確認してから、優先度の高いところ、また、施工ができるところを順序立てて詳細設計をかけていくという構想のもと、基本設計のほうを発注させていただいております。

【委員】

そうすると、今後予想されます西部水源系以外のものの詳細設計を、どのような形で、どのような理由でカギテックと随意契約をなさる予定でしょうか。

【担当課】

今後は、一応今年度中に両方とも、基本設計のほうも今年度中に業務が終わる予定をしておりますので、一旦業務が終わった後は、当然、重複する業務という形で、当初から重複する業務を省いて設計することができなくなりますので、一般競争入札で公平に競争入札ができるような形で設計を組んで発注をかける予定にしております。

【委員】

わかりました。

【委員】

すみません、今さらの質問かもしれないんですけども、まず、この21ページに掲載されています予算額というのと設計額というのは、その差が、この25ページのほうには、これはいつもの予定価格と契約金額という形で出てくるわけなんですけれども、この予算額と設計額と予定価格の関係を教えてくださいませんか。

【担当課】

まず、予算額としましては、これが一般競争入札をかける場合、全ての歩掛かりどおり設計を行った場合、約1,857万6,000円ほどかかるという想定のもと、予算計上をさせていただいております。実際に当初は、一般競争入札を発注する予定で設計を行った結果、1,848万8,520円で設計を行っております。ただ、これを一般競争入札をかけても、最低制限価格というのが設定されて、実際には税込みで1,460万2,680円、これは昨年度の上下水道部の水道における最低制限価格を割り出した率を掛けた場合、これぐらいの金額になるんですが、うちが重複する部分を当初から積算を省いたところ、1,294万ほどで設計ができるということで、一般競争を掛けるよりも随意契約のほうが最低でも165万ほど安く発注ができるということで随意契約をお願いしたものでございます。

【委 員】

ありがとうございました。

これは、すみません、予算額、設計額というのは税抜きということでしょうか。

【担当課】

予算額と設計額については税込みです。

【委 員】

税込みの額ですね。予定価格、これも税込みですか。

【事務局】

それは税抜きですね。

【委 員】

予定価格だけは税抜きで、あとは税込み額ということですね。ありがとうございました。

【委員長】

ほかにいかがですか。

【委 員】

今回は、かなり価格を安くできたという経緯ですけれども、次回からは重複する設計業務はできないというのは、また逆にどういう理由なんだろうということと、もし次回、同一業者がとるようなことがあったら、何か変わることはあるんでしょうかという。次回以降のことはよくわからないですから、先ほど何か、こういうやり方は今回限りだみたいなことを言われたような気がするんですけどね。

【担当課】

すみません、説明のほうが足らなかったと思います。現在、基本設計業務を受託中の業者に詳細設計業務を随意契約したため、重複する部分の業務は当初から省いて発注したと。来年度以降は基本設計業務が終わっておりますので、重複する部分については当初からはありませんので、歩掛かりどおり設計をさせていただいて、一般競争にて公平に発注をかけたいというところでございます。

【委 員】

ということは、今回で言う1,294万円の設計の部分だけが次回以降の業務になるということですね。

【担当課】

基本設計業務の中では、重要管路13路線を業務発注しておりまして、その中の今回1路線を随契で発注させていただいたと。ですので、あと残り12路線、順次発注をさせていただく予定をしておるんですが、詳細設計した後にはやはり工事発注という流れになりますので、できるタイミングで順次詳細設計をかけさせていただくというところでございます。

【委員長】

私のちょっと理解力が足りなくなりますけど、年度がかわっても、別の地区の詳細設計業務と基本基幹何とかと、全基幹管路、それで内容としては重複する部分というのはあるじゃないですか、その今回の地区だけではなくて。そこはどういう理解ですればいいのかな。そういう意味ではない？

【担当課】

すみません、工務課の栗原といいます。

今回重複させてもらっている部分というのが、河川協議であるとか管路基幹の協議等は、2業者がとった場合、2回行って、その打ち合わせ回数等も計上しないといけないんですけれども、現在やっているところが出れば、その協議も1回で済みますし、そういうところを削減させていただいて設計を上げさせていただいておるということで、年度がかわれば協議は行かなくてはならないしとなりますし、そういう関係で、そういうところを省いたということでございます。

【委員長】

わかりました。どうもありがとうございました。何というか段取りを合理化すると、随分安くなるものなんですね。そういった印象があります。

委員さん、どうですか。

【委員】

全体を見渡して、最初から全体をやるつもりだということで、業務内容を段取りを見直すと、もっと全体価格が安く、重複作業を減らすという意味では、何かもうちょっといろいろ工夫すれば安くなるんじゃないかなという気も、ちょっと感じもしましたので、ちょっと詳しいことは知りませんが、もしそういうことがあるならご検討ください。

【委員長】

ほかはどうですか。

それでは、この案件につきましては、特に問題のないものといえます。

あと、今先生のほうからご質問がありましたので、今回の業務に限らず、質が落ちない形で合理化できるところがあれば、積極的にやって頂きたいと思います。

低入札価格調査制度試行案件について

【委員長】

では、次の案件なんですけれども、第3案件と第4案件につきましては、抽出理由として、低入札価格調査制度試行案件であるということも含めて抽出いたしましたので、事務局のほうから、そもそも低入札についての説明をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

【事務局】

それでは、事務局のほうから低入札についての説明をさせていただきます。

今、すみません、委員さんのお手元のほうに後でお配りさせていただいた注意事項と書いてある参考資料がございますので、そちらをごらんください。

本来の入札ですと、予定価格以下で最低制限価格以上の金額でしか落札ができませんが、低入札価格調査案件というので行う入札におきましては、最低制限価格を調査基準価格として設定し、入札価格がそれを下回っても、それより下の失格基準価格以上であれば、その入札価格で適正な工事が行われるかの調査を行った上で落札を決定することができます。

なお、失格基準価格につきましては、そちらの資料のほうにも算定式が書いてありますが、それは算定式の一例なのですが、そのような算出式に基づいて算出を行い、大体予定価格の70から75%で算出することになっております。

また、お手元のその資料の見積協議書の判断基準という黒丸の3番目のところの項目をごらんください。入札時に提出された工事費内訳書の内容と、この表に基づいて算出した費目ごとの金額を比較しまして、入札した工事費の内訳が1つでも判断基準となる価格を下回っていた場合は、適正な工事ができないと判断いたしまして失格となります。

なお、桑名市では基本的に予定価格1億円以上の工事を低入札試行案件として執行しております。

低入札についての説明は以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。

今のご説明につきましては、なかなか難しいですけれども、ご質問等があればと思いますけれども。

【委員】

この低入札価格調査、この趣旨としては、より安く公共工事をしようという趣旨と、とはいえ、質は確保しなきゃいけないという兼ね合いの中でつくられた制度という理解でよろしいかという点が1点と、先ほど、価格が1億円以上のものに適用していて、それ以下のものには適用していないのかという点が2点目と、今後これを拡大していく予定があるかという点、3点質問とさせていただきます。

【事務局】

まず最初に趣旨の点なのですが、一般的に低入札価格調査の試行につきましては、ダンピング防止、

これ以上下がり過ぎないのを防ぐためというような名目になっておりますが、現実的なところも加味して考えますと、やはり本来の入札の限界の額よりも、最低制限価格よりも下げて、金額の高いものほどやはり下げやすい余地は出ますので、それで、下げる企業努力があると。それを認めた上で、かつ、下がり過ぎない、品質が落ち過ぎないというのを調査によって調べた上で、そういう条件に基づいて調査などを行って、品質が下がらない、かつ安いのをこの低入札という制度でやろうとしております。

それと、2つ目ですが、基本的に予定価格1億円以上というふうになっておりますが、例えば三重県ですと、5,000万円以上を基準にしておるといふように伺っております。桑名の場合、でも、今は8,000万、7,000万ぐらいでも、とりあえず担当部局と相談の上、低入札価格調査制度を導入するかというのを話し合っていて決めています。1億あれば必ず実施してもらえんという形なんですけど、それ以下の場合、今のところは相談というか、話し合いによって決めている形になります。そして、この適用拡大については、今のところ具体的に、ここから例えば県に倣って5,000万からにするとか、そういうような話は今のところは出しておりませんが、周辺の状況とかそういうのを考えながらまた進めていきたいと思っております。

【委 員】

それと、なるべく安くということですけど、低入札の制度を使った後の実際の工事の、専門的でわからないですけど、工事のできとか従前のものと比べて、そこを比べてみて問題ないとかいう調査とかいうことはされているのかされるのか、そのあたりはいかがでしょうか。

【事務局】

この制度なんですけど、実は導入されてから、あまり高い金額の入札がないということもあり、この制度が24年なんですけど、始まったころに数件ありまして、ここ二、三年ほどちょっと実例がなく、私の知る限りでは、検査のほうとか、その辺をどんなようになっていたかとかいうのは今のところ存じておりませんので、すみません。

【委 員】

ちょっと質問が伝わりにくかったかもしれませんが、これは最近の制度ということは理解するんですけど、要は、従前でしたらこの制度を使っていない、似たような工事があったときのイメージとして、できがこんなぐらいたったところ、当然検査したときにオーケーはオーケー。この制度を使ったときに、このできというのがこのぐらい下がつて、オーケーはオーケーだけど前より下がっているねとかいうところの調査はしているのか、それともしないのか、される予定があるのか。要は検討というか評価とかいうか、そのあたりをやっておるのでしょうか。

【事務局】

そういったものは行ってはいないので、そういうように今のところは差を見るようなことは行っていません。

【委 員】

意見になってしまうんですけど、安くしても、それだけ変なしわ寄せで質が落ちているということになると、この制度自体を、安ければいいというものじゃなくて、質も確保しなきゃいけないと。変な話、もっと言いますと、しわ寄せが人件費に影響してブラック企業みたいなことになるのもまずいでしょうし、そのあたりの事後調査というのはされたほうがいいのかないのかなというのが一委員としての意見でございます。

以上です。

【委員長】

ありがとうございました。

ほかには。

【委 員】

(特になし)

抽出事案 3 巖新田幹線森忠枝線污水管路施設工事

【委員長】

それでは、今のご意見を含めて、次の第3案件のほうを進めてまいりたいと思います。巖新田幹線森忠枝線污水管路施設工事についてです。発注担当課のほうから工事概要の説明をしていただいて、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についての説明をお願いします。

【担当課】

上下水道部工務課です。どうぞよろしくお願いいたします。資料の26ページをごらんください。

工事名は巖新田幹線森忠枝線污水管路施設工事、設計額は1億1,909万8,080円、工事期間は平成28年7月15日から平成29年2月28日までとなっております。施工場所は、桑名市大字森忠他地内でございます。

ここで27ページの地図をごらんください。本工事は、三岐鉄道北勢線の七和駅から東へ約0.5キロメートルの地点で、御幸町から森忠のヤマモリ株式会社桑名工場付近までの施工となっております。工事の概要としましては、污水管路布設工事を開削工法及び推進工法にて行い、森忠及び御幸町地区の污水整備を行うものでございます。また、污水管布設に伴い、支障となる水道管も一部布設替を行っております。

具体的な工事の内容としましては、推進工法による污水管布設工、φ200から250を47.2メートル、開削工法による污水管布設工、φ125から200を519.6メートル、鋼製立坑工φ1,500を1カ所、鋼製立坑工φ2,000を4カ所、地盤改良工一式、付帯工一式、配水管布設工φ50から200を382.8メートル、消火栓1基となっております。入札の条件につきましては、推進工という特殊工法がありますことから、技術、経験等を有することが必要であり、大中口径推進工法または小口径推進工法、高耐荷力推進方式の施工実績を有する業者といたしました。また、三岐鉄道軌道下の推進工事ということもありまして、三岐鉄道株式会社と施工協議を行いましたところ、施工条件として、元請業者に、三岐鉄道の軌道下工事において元請現場監督者の経験を持った者、東海旅客鉄道株式会社が認定した工事管理者の有資格者、近畿日本鉄道株式会社土木関係工事元請現場監督者認定証の交付を受けた者のいずれかの技術者を配置するよう指示がありましたので、その他技術者要件として設定いたしております。

以上でございます。

【事務局】

では、引き続きまして、本件の発注、入札の経緯について説明をしていきます。資料の28、29ページです。

本件、低入札価格調査制度試行案件として、平成28年6月15日に事後審査型条件付一般競争入札で公告を行いました。発注業種が土木一式工事、建設業許可が特定土木工事業です。所在地としては県内です。経審点数は、市内、準市内、県内ともに730点以上としました。完工高が、発注業種の完成工事高が税抜き予定価格の2分の1以上、同種工事施工実績として、平成18年度以降、官公庁の発注した元請単独の案件で、大中口径推進工法の工事实績か小口径推進工法、高耐荷力推進方式の工事实績を求めています。技術者要件として、現場代理人と監理技術者、その他技術者として、監理技術者は専任、その他の技術者としては、先ほども話されていた軌道下工事の影響の部分の施工工事に以下のいずれかを満たす者としての条件を付しております。その他としては、低入札で契約を履行する場合、現場代理人及び監理技術者のほかに監理技術者に求める資格を有する者を専任の技術担当者として1名追加という条件を付しております。

そのような公告内容で平成28年7月5日に開札を行いましたところ、2者の入札があり、そのうち1者が調査基準価格以下の入札となりましたため、調査を行ったところ、見積内訳書の判断基準を満たしませんでしたもので、本業者を失格とし、株式会社中村組を落札予定者として、その後の審査に当た

り適切であったために、本業者を落札者とし契約を締結いたしました。

以上となります。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

【委 員】

工法のところで、推進工と開削工とあるんですけど、理解が間違っていたら教えてほしいんですけど、開削工というのは、よくあるアスファルトを引っ剥がして掘って、そこに管を埋めていってつないでいくというやり方で、推進工というのは、例えば、地上の工作物があるせいで、その上はできないということで、これですと200から250φということですので、そんなに直径が大きいんですけど、要は、トンネルみたいに掘っていくイメージで、それで管を埋めていくという工事の理解でよろしいのかという点と、それと関連して、その結果、推進工の実績が必要なので、結果この2者になってしまったという理解、要するに、開削工であつたらもっと多くの入札があつたんでしょうかという、この2点を教えていただけますか。

【担当課】

工務課の栗原でございます。

1点目の開削工法と推進工法というのは、委員のおっしゃるとおり、開削工法については、通常の道路の舗装をめくって、上から掘って管渠を埋める工事でございます。推進工法というのは、深いところ、また、先ほど言われました構造物等があつて掘れないところ等について、トンネル工事で工事をするところでございます。

今回2者になった理由といたしましては、軌道下ということで、三岐鉄道さんから施工条件のほうをつけていただいております。その辺のところの協議の結果、そういう現場の監督者の資格要件を条件としていただいておりますもので、そういった点から、業者が限られてくると。今回、市内業者、準市内業者なんですけれども、市内ですとなかなか難しいということで、県内まで広げさせていただいております。通常、ホームページ等を見ていただく業者さんというのは、市内の方が多いと思います。その辺のところもあつて、2者の入札になったのではないかと思います。以上でございます。よろしいでしょうか。

【委 員】

ありがとうございます。

【委 員】

確認でございますけれども、今回の場合は、調査基準価格以下で失格になったところですが、直ちに失格基準価格を下回っておるわけではないけれども、見積内訳書の判断基準のいわゆるこの8費目について、どこかがその基準を満たしていなかったということでよろしいのでしょうか。

【事務局】

水道工事の直接工事費について基準を満たしておりませんでしたもので、失格としております。

【委員長】

ほか、いかがでしょうか。

【委 員】

今回の低入札価格の調査ということで、この見積内訳書の判断基準というのは業者さんにも公開されている内容ということでよろしかったでしょうか。

【事務局】

はい、公開しております。

【委 員】

業者さんがここをちょっと見落として、間違った数字を今回入れてしまったという結果ということでですね。

【事務局】

積算のあたりの計算の関係という部分になると思います。

【委員】

ありがとうございます。

【委員長】

ほかはどうでしょう。

それでは、この案件につきましては問題ないということにしたいと思います。

抽出事案 4 桑名市防災行政無線整備工事

【委員長】

それでは、続いて第4案件です。桑名市防災行政無線整備工事につきまして、発注担当課から工事概要を説明していただき、その後、事務局から発注公告の内容と入札経過についてのご説明をお願いいたします。

【担当課】

防災・危機管理課、太田でございます。よろしくお願いいたします。30ページとなります。

工事名、桑名市防災行政無線整備工事、工事場所、桑名市内全域、設計額、5億6,763万5,040円、工事期間、平成28年10月4日から平成32年1月31日。工事概要のご説明をいたします。今回整備いたします同報系防災行政無線とは、浸水が想定される地域への大雨や台風、地震などの災害に関する情報、災害時や災害の発生が予測される場合における円滑な避難勧告や指示を屋外拡声子局、スピーカーを介して市役所から市民の皆さんに対して無線放送で一斉に防災情報をいち早く確実に伝達するシステムです。本工事は、市既設のデジタル移動通信システムに同報拡声機能を増設するもので、現在、桑名地区には同報無線設備はなく、今回、53局を新設とし、多度地区及び長島地区にはそれぞれ合併前に整備してありましたアナログ波の同報無線設備の48局について、スピーカーをデジタル波に対応したものに整備いたします。また、通常の報知に加え、緊急地震速報やJ—ALERTと連動することで、より迅速かつ正確な情報伝達を行います。

以上でございます。

【事務局】

続きまして、事務局のほうから発注公告及び入札経過について説明をさせていただきます。資料の32ページをお願いいたします。

入札方法は、事後審査型条件付一般競争入札の低入札価格調査制度試行案件となっております。平成28年6月9日に公告をいたしまして、入札参加の資格要件につきましては、電気通信工事業の特定建設許可業者であること。それと、発注業種は電気通信工事です。所在地につきましては、県内外全てを対象とし、その経審点数につきましては、市内業者は450点以上、準市内業者は1,000点以上、県内業者及び県外業者は1,100点以上としました。また、完工高につきましては、発注業種の完成工事高が予定価格の2分の1以上であること。同種工事の施工実績として、平成18年度以降、官工事を発注した案件で当該工事と同等のデジタル防災行政無線整備工事（デジタル防災無線設備の親局を含む2局以上の基地局・中継局を含む主要な設備工事）の施工実績があること。ただし、元請単独または共同企業体の代表構成員として施工した者に限るという条件をつけております。また、技術者要件として、建築業法第26条に定める監理技術者、電気通信の専属配置と現場代理人の配置を、ただし、低入札価格で契約をすることとなった場合、現場代理人及び監理技術者のほかに監理技術者に求める資格を有する者を専任の担当技術者として1名追加配置することを求めています。また、その他の要件として、電波法第24条の2第1項の点検事業者の登録を受けていることと、みずから無線機器を製造し、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則第2条第25号の6の無線設備260メガヘルツ帯に対し、電波法第38条の24の規定に基づき工事設計認証を受けているということを求めています。

ます。以上の要件をもって公告をいたしました。

続きまして、入札の経過及び結果についてです。33ページをごらんください。

平成28年6月29日に開札をいたしましたところ、1者から応札があり、開札の結果、その価格が調査基準価格以上予定価格の範囲内であったため、パナソニックシステムネットワークス株式会社を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き5億2,000万円で契約を締結いたしました。

以上となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきましてご質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

【委員】

拡声の子局、子供の局の配置図を見ますと、浸水防止の観点から見るので、要は海拔ゼロメートル地帯の土地が低いところに設置されるようですが、防災の観点からいえば、整備地域は多度の山のほうというか上のほうというところにはそうしたものが届かないんですけれども、今後はそういう地域にもそういった子局を配置する計画とかそういうのはあるのでしょうか。

【担当課】

今回整備するのは、あくまでも浸水区域、海拔ゼロメートル地帯を中心というふうな形で、木曽、揖斐、長良と員弁川沿いというふうな計画では進めておりますけど、今後、土砂災害とかそういった箇所が、今、桑名市内、指定されていないものですから、今後そういった地域が指定される場合が出てくれば、そこについても増設をしていく計画でございます。

【委員】

申しましたのは、例えば、海拔ゼロメートル地域に浸水するおそれがありますよというのを、浸水のおそれのある地域の方はご存じでも、例えば、西方の地区の方がそのほうに行こうと思うときに、そういうおそれのあることを知らずにその地域に入ってしまうおそれも考えられますので、できれば桑名市全域にそうしたものが届くように早急につけてあげるのが、この委員会の趣旨とは外れますけれども、よろしくお願いいたしますというふうに思います。

以上でございます。

【委員】

こちらの参加資格要件のところに、その他の要件で、1つ、みずから無線機器を製造するという条件がついているということは、おのずと業者がかなり限られてくると思うんですが、みずから無線機器を製造し、その他の要件を満たす業者というのは、推定何者ぐらいあったんでしょうか。

【担当課】

入札時点で調査しましたところ、全国で8者は見込んでおりました。

【委員】

ありがとうございました。

【委員長】

ほか何か。

【委員】

今のご質問に関連してなんですけど、みずから無線機器を製造というのは、やっぱり外せないんですかね。

【担当課】

製造責任ということを考えますと、あくまでもやっぱりこういったみずからが製造している業者でないと、いざという、人の命に関することですので、こういった要件をつけさせていただきました。

【委員長】

何か。よろしいですか。

【委員】

非常に最初はいいいんですけど、災害時に動かなかったみたいなのは時々あるんですけど、こういったものは何か保証期間とか、そういうメンテナンスとかというのはまた別途契約になるんですか。この中に込み込みになるんですか。

【担当課】

現段階での工事業務につきましては、メンテナンス等は含んではおりません。また別途、維持管理についての契約になってくると考えております。

【委員】

素人の質問なんですけど、通常、電化製品だと1年間とか3年間保証というのがあるんですけど、これはいかがですか。

【担当課】

設備関係の工事関係になりますと、瑕疵担保というのは通常1年というふうなことを聞いております。

【委員】

今のに関連してなんですけど、例えばこのような設備であれば、当然その後の維持管理というかメンテナンスというのは発生してくると、あるべきと予想するのかなと思うわけなんですけど、そこを含まずにいわゆるやるというのは、例えば、またメンテナンスに関してはその入札でいろんな業者が応札できるような形にするというようなお考えなのでしょうか。

【担当課】

現段階では、応札業者による多分維持管理については随意契約というふうな形が一番ベストではないかなとは考えてはおります。

【委員】

そうすると、最初からそれを織り込んでの入札にするというものではないんですか。ちょっとすみません、その辺がわからないんですが。

【担当課】

そここのところの考え方という、非常に難しいのかなとは思いますが。この工事業者自体にも、そのものに今後何年間の維持管理をお願いするのかという形になるのか、単年度の維持管理契約というふうなことになるのか、その辺が非常に難しい問題なのかなとは思いますが。

【委員】

すみません、素人だもんで。随契でまた別でやるぐらいなら、当初からおよそ、よく電化製品であれば3年とか5年とか言っているわけですから、当然使い続けるについて、これだけの広範囲にわたっての設備をこれだけ設置したとなると、やっぱり全く知らない業者よりは、当然同じ業者のほうが随契でやったほうが安くつくよということに多分なってくるのであろうはずですし、その随契の入札をするときには、当然、じゃ、何年分やるんだというの、またそのとき出てくる話であって、であれば、当初からそれを織り込んでもいいんじゃないのかなと思ってしまいますが、それは素人考えでしょうか。

【担当課】

実際、施設の維持管理となりますと、現状、長期契約というふうなことも考えられてはおるんですけど、こういった機器とかそういったものにつきましては単年度契約で、必要となれば更新というふうな形も出てくると思いますので、そういったところを今後何年に設定して維持管理をするのかとなると、非常に厳しくなってくるのではないかなとは考えております。

【委員】

すみません、しつこくて申しわけないです。参加資格要件でわざわざ、みずから無線機器を製造し、要するに製造者責任を求めるかのような要件をつけられている中で、当然、そのもののメンテナンスのことというのも含めて考えられないのかなというような素人の意見です。

【委員長】

ほかはいかがですか。

それでは、この案件につきましては特に問題なしといたしますけれども、今の質問でも出ていたように、なかなかどうして、最初の発注の時点で多分これに関してのメンテナンスは随意契約になる見込みがもしあるのであれば、セットにしたほうが質が保たれて、なおかつ安くなるという見込みがある場合は、やはりそちらを選択していただくのが自然かなというふうに思いますので、いろいろ手続上難しいこともあろうとは思いますが、そこら辺を研究していただければと思います。

抽出事案 5 除塩用水管推進工事

【委員長】

では、最後の案件です。除塩用水管推進工事につきまして、発注担当課から工事概要を説明していただき、事務局から発注公告の内容と入札結果についての説明をお願いします。

【担当課】

農林水産課の丹羽です。

私ごとではございますが、昨年度まで、契約監理課当時は委員の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

それでは、34ページになりますが、工事概要書のほう、工事名、除塩用水管推進工事について説明させていただきます。

まず、この事業の説明をさせていただきますが、長良川河口堰下流部の塩害被害を防ぐ目的で、長良川河口堰の保証用水として除塩用水の水利権を平成6年に取得してから、長良導水事業に並行して、取水施設設備及び送水管設備に着手してきました。取水施設は完成しており、送水管設備についても全体の99%強は完成しており、今回はその未整備区間を整備し、除塩用水を通年取水し、対象地域の農耕地に灌漑し、浸透塩分を希釈するものであります。最低額は9,722万520円で、工期は契約の日から平成29年2月28日までです。工事の概要としましては、泥濃式推進工55メートル、仮設備工一式、発進立坑工一式、到達立坑工一式、開削接続工29.3メートル、仮設工一式となっています。工事場所につきましては、次のページになりますが、地図を見ていただきたいと思います、桑名市長島町押付地内となっています。

今回の工事についての説明は以上となりますが、今後の整備についても少しお話しさせていただきますと思います。

先ほど、取水施設については完成していると述べましたが、建屋、ポンプ場だけがあり、中身、いわゆるポンプや計測設備の整備は未整備となっています。当初の予定では、ポンプを3台中に設置する予定となっています。31年ごろにできれば1台、また、次回の水利権の更新時、36年ごろにもう一台ぐらいというような感じで順次進めていきたいと考えております。

説明は以上となります。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【事務局】

それでは、続きまして、事務局のほうから発注公告及び入札経過についての説明をさせていただきます。資料の36ページをお願いいたします。

入札方法は事後審査型条件付一般競争入札です。7月14日に公告を行っております。入札参加資格要件につきまして、発注業種は土木一式工事。土木工事業の特定建設業の許可業者であることを求めています。所在地要件としましては、市内、準市内、県内としました。その経審点数につきましては、市内業者は730点以上、準市内及び県内業者は1,200点以上としております。また、完工高につきましては、発注業種の完成工事高が予定価格の2分の1以上であること、他同種工事の施工実績として、平成18年度以降官公庁が発注した案件で、推進工法φ500以上の泥濃式推進工法の施工実績、受注形態、元請単独を有すること、また、技術者要件として、建築業法第26条に定める監理技術者土木の専任配置と現場代理人の配置を求めています。

以上の要件をもって公告をいたしました。

続きまして、入札の経過及び結果についてです。資料の37ページをお願いいたします。

平成28年8月3日開札を行いましたところ、2者から応札があり、開札の結果、最低制限価格以上予定価格以内でより低い価格で応札した水谷建設株式会社を落札候補者といたしました。その後、事後審査を行った結果、適格であったため、当該事業者を落札者に決定し、税抜き7,469万円で契約を締結いたしました。

以上となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明につきまして、ご説明、ご意見がございましたらお願いいたします。

応札業者は2者でしたけれども、この要件に当てはまる業者の見込みは何者ぐらいでしたでしょうか。

【担当課】

事前に調査をしましたところ、市内業者として3者、準市内で2者、県内業者として11者の合計16者を見込んでおりました。

【委員長】

この2者というのは、予想というか見込みというか、数としてはいかがでしょうか。類似の工事ではどういう感じでしたか、最近は。

【担当課】

一応この泥濃式の推進工事、実績を持つのが、市内では3者ということで、この入札を行うに当たり、まず、φが900ということから、半分のφ500以上の実績を条件として必ず求めたいと思っておりました。それから、やはり応札者が少ないというようなことがあらかじめわかっていたので、やはり不祥事防止のことも含めて、入っていただける入札業者を増やしたいなというようなことで、準市内、県内と広げていきました。ただし、その県内まで広げたところにつきましては、経審点数を1,200点以上にするというようなことで、要件をつけさせていただきました。入札結果はやはりちょっと少なかったなと思います。

【委員長】

ほかはいかがですか。

それでは、この事案につきましては特に問題なしといたしたいと思います。

それでは、以上をもちまして抽出事案の審議を終了いたしますので、発注担当課はここで退席していただきますようお願いいたします。どうもありがとうございました。

(工事担当課 退出)

【委員長】

次回の審議案件の抽出は、名簿順で伊藤先生、よろしくお願いいたします。

(3) その他

【委員長】

次にその他ですけれども、委員の皆様並びに事務局のほうから何かございますか。

【事務局】

特にございません。

【委員長】

それでは、これにて平成28年度第2回の桑名市入札監視委員会を終了させていただきたいと思いま

す。

なお、本日の審議概要は、後日、事務局でまとめていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。